

令和6年度 第1回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日 時 令和6年6月6日(木) 18:30~20:10
2. 場 所 伊勢市役所 本庁舎東館 5-3会議室
3. 委 員 竜田 和代 (公共的団体:伊勢市女性団体連絡協議会)
高橋 克彦 (公共的団体:伊勢市環境会議)
中村 佳子 (公共的団体:伊勢市観光協会)
山村 直紀 (学識者:三重大学)
平山 大輔 (学識者:三重大学)
中松 豊 (学識者:皇學館大学)
奥田 哲也 (三重県南勢志摩地域活性化局)
岡野 直高 (中部電力パワーグリッド株式会社)
上野 早苗 (公募)
岡本 忠佳 (公募)
田岡 光生 (公募)

【欠席】

- 福村 伝史 (公共的団体:伊勢商工会議所)
河井 英利 (公共的団体:伊勢農業協同組合)
杉田 英男 (公共的団体:伊勢湾漁業協同組合)
杉山 謙三 (公共的団体:伊勢市総連合自治会)
勝又 ひとみ (公共的団体:伊勢小俣町商工会)
松永 彦次 (神宮司廳)
藤原 寛仁 (三重交通株式会社)

- 事務局 大桑 和秀 (環境生活部 部長)
山本 佳典 (環境課 課長)
角谷 晃 (環境課 主幹)
村田 雄紀 (環境課温暖化防止推進係)
林 歩 (ごみ減量課 課長)
西岡 誠司 (ごみ減量課 主幹)
松田 康 (産業観光部 参事)
小林 正幸 (農林水産課 副参事)

4. 概要

(1) はじめに

(2) 議事

① 第3期伊勢市環境基本計画における取組の実施状況と総括について

○事務局による説明

- ・ 資料1から資料3に基づき、第3期伊勢市環境基本計画に掲げる各取組に対する令和5年度実績と令和2年度～令和5年度の4年間の施策の成果及び課題、今後の方向性など、取組における総括について説明
- ・ 資料4に基づき、第2期伊勢市環境基本計画の重点事業における目標指標の達成状況を提示

○質問・意見等

- ・ 資料1の3ページ「ごみの分別」のところで、今年度からプラスチック製品の回収が始まったことはとても良いと思うが、結局、なぜそれを回収したり、再生しなければならないか、ということを私たち市民はあまり知らない。「ごみが減るからそれをしなければならない」という認識ぐらいしかないと思う。聞くところによると、2020年頃にオランダで、人間の肺・血液・母乳・脳などからマイクロプラスチックやナノプラスチックが出たり、最近では日本でも、胎盤の中から発見されたり、それから、脳梗塞や心筋梗塞のプラークの中からマイクロプラスチックが出てきたということも、日本の研究の中で発見されたという。実際、今、発見されたというだけなので、それがどうなっているのかは、まだこれからのことだと思うが、やはり一般市民も、そういう危険性があるから、できるだけ除去していこうという方向に、一人一人が気を付けられるような、まだ発見されたばかりでそれがどうなのかというところがはっきりしないので、PRするには厳しいところがあるが、なぜそれをしなければならないかというところを、何らかの方法で、「こういう情報がありますよ」というような発信をしてもらえたら良いと思う。

合わせて、リサイクルプラザは利用されていない気がする。環境フェアで古着の無料譲与というのもあるが、鳥羽市などは各地域のリサイクルステーションに、小さなリサイクルプラザのようなものがあり、そこでお金を払って、欲しい人がもらっていくというような所があるらしい。そのような新しい事業になると、人手とかいろいろな問題があるが、一般市民に広く普及させるには、皆が目につく所で、少しでもリユースをPRできるような場を考えていただければありがたいと思う。

⇒まず1つ目は、プラスチック回収の目的のことかと思う。令和4年4月からプラスチック資源循環促進法、それから法改正もあり、プラスチック回収の必要性は、やはり「資源循環型」というところから出てきているものと認識している。プラスチック自体は、石油等々からできてくる。限りある資源を、これ

からもリサイクルを通じて有効活用していかなければならない。そういったところから、これまで伊勢市も、容器包装の回収をしていたが、その法律に基づき、「燃やすよりもリサイクルできるものは資源につなげていかなければならない」というところから、法に基づいて回収を始めたところである。市も脱炭素宣言、カーボンニュートラル宣言をさせていただいた中で、先ほどお話しいただいた、「海洋ごみが流出していく」ということも無くなるように、「ペットボトルからペットボトルへ」という発想で切り替わってきている。社会情勢もあるかと思う。そういった波に乗って、これからも市民に分かりやすい普及啓発を心掛けていきたいと思っている。

もう一つが、リサイクルプラザの活用。広域環境組合でされているものということで、市も半分以上関わってくる話になるが、リサイクルプラザでのリユースや、こういったものが資源に変わっているというような展示をしたりといった活用もされている。私たちも、環境フェアなどのイベントでのリユース啓発をやっているが、その辺りは広域環境組合などと連携させていただき、どういったことが市民にとって効果的なのか検討していきたいと思う。【事務局】

⇒今の意見の中で、資源を回収して循環させるという。マイクロプラスチックが増えるというのは、回収効率の問題だと思う。その辺りをどうするかという話だと思う。

⇒ポイ捨てから不法投棄というようなところから発生してくるものだと思う。各企業・飲食店などのご尽力もあり、プラスチックから紙製のストローに変えてもらうとか、そのような心掛けをしてもらっている所もあるので、私たちとしては、そういった資源の大切さも訴えながら、不法投棄とポイ捨てが発生しないよう、併せて啓発を進めさせていただきたい。【事務局】

⇒それが小学校・中学校からの出前授業などに入ってくると、より良いかと思った。

- 浸水対策のことが基本目標 1（2）にある。宮川の中州がどんどん大きくなっている感じがするが、そこ自体の排水能力というか、流れてくる水を上手に捌いてもらわないと、以前みたいに上流の方で洪水が増えるということもある。その辺りについて、国との連携はどうなのか。

それからもう 1 点。LED化のことが言われているが、LED化することによって掛かる費用と今までの費用とを比較・検討した結果、LED化されていると思うが、その辺りの具体的な数字があれば教えて欲しい。

⇒「宮川の中州のところが大きくなっている」というところだが、川の特性上、天井川などと言われるが、そうなるのだろうかという中で、浚渫については、どういう周期でやっているのか、今、持ち合わせていないので、後日、回答さ

せていただきたいと思う。

2点目の「LED化の効果」については、いろんな情報があり、例えば電気代は基本的に半分以下になると言われている。それに連動して、いわゆる脱炭素化も図れる。一つの目安として半分以下になるというところで、市役所でLED化をした時の効果を発信することで、一つの目安にしていきたいと思っているが、まだその検証自体が進んでいないので、順次進めていきたいと思う。【事務局】

- 長年、日々の努力を重ねられて、いろんな結果を出されている中で、皆さんの努力の積み重ねの効果を、もっと一般の方に分かりやすく発信する方法があると良い。例えば、「ごみの減量で何キロ・何トン回収」という結果が出ているが、この数字を見せられて、「すごい、何トンも」とは思うが、その何トンが「じゃあ、どれぐらいの効果になるのか」とかが分かれば。

あと、生ごみを回収して外へ出さなかった場合、海へ流れなかった場合に、「もしそれが海に流れていたとしたら、どれぐらいの影響を及ぼしていた」「多少なりとも効果が出た」とか。ジムで自転車をこぐと、こいでいる間に何キロカロリー消費というのが出て、飴・キャンディ1個分がようやく消費される、といったようなものがある。もっと市民が協力してやらないと、やっている効果が、海とか山とか自然に還元されるほどには現れて来ないかと思う。なので、仰られたように、「全然改善されていない」という意見になってくる。でも、やっていただいているし、市民も協力してやってくれている。だから、これだけでは駄目だということを、もっと見せていただかないといけないかなと思う。

あと1点。小学生とか子どもたちの食育などに関し、給食で指導もしていただいているが、例えば、時間的に可能かどうかは別として、理想を申し上げると、小学校中学年以上だったら自分の使った食器を少しきれいにするとか、パン食だったらソースなどをパンで拭って食べるとか、もし可能ならば「へら」などを各教室に1つか2つずつ持って、自分の食べたものをきれいにして返すとか。それを家庭ですれば、家族が助かるし、何かそういう、楽しいというか、みんなが嬉しいというか、そのような試みもできたらと思う。

⇒たしかに、見せ方ということでは下手なところがあるかと思う。先ほど仰られたように、ごみの減量に関しても、見ていただくと減ってきている。そういったところは感じていただけるのかなと思いながら、これも要因というものがいろいろあり、やはり、市内の人口が減ってきているなら、ごみも減るところもあるかと思う。一人一日当たり、グラム数単位でどれぐらいのごみの増減があるのかといったところを、今後、精査させていただきたいと思っている。直近の数字でいくと、ごみ処理基本計画の中で目標値に到達するには、グラム数で一人一日当たり約50グラム程度、目標値にまだ到達しないというところで、50グラムというのがどれぐらいになるかということ、板チョコ1枚とか、そうめん1束ぐらいに当たるということで、「もう一日、一人一人が減量をし

ていけるなら、効果があるんだな」という見せ方、発信を、これからも工夫していきたいと思っている。

併せてお話しいただいた食育等々で、学校関係への環境教育の発信のところだと思う。従来は小学4年生にごみの学習をする機会があり、雑紙チャレンジという名目で、夏休みなどに雑紙の排出に取り組んでもらったりしていたが、6年生までである中で、ごみの学習に取り組んでもらうのが1年間だけということのもったいないということで、引き続いてできるように、4年生が雑紙であるなら、5年生は生ごみの減量や水切り、食品ロスに取り組んでもらうということで、「ごみゼロチャレンジ」という取組をさせていただいている。そういったところで子どもたちが取り組んでいただくと、親御さんたちも協力していただける。そういった連鎖で、波及が大きいような、効果があるような取組を、引き続きやりながら、関心を持ってもらわなければいけないと思う。いろんな情報を収集し、効果的な取組を研究していきたいと思う。【事務局】

⇒なるべく身近に感じなければいけないので、一人当たりどれぐらい出すとか、一人当たりになると、小さな子どもや直接ごみに関わらない人たちが含まれるので、一世帯当たりになるとか、その辺はいろいろ工夫が必要かと思う。なるべく実感が湧くような示し方が重要かと思う。

- 資料1の5ページ「森林環境の保全」。主な取組で、間伐等の適正管理を支援するということが載っている。この前、新聞を見ていたら、政府が2033年度までにスギ林を2割削減するということがあった。伊勢は、神宮林にスギもたくさん生えている。適正管理というと「花粉の出ないような木を植えなさい」とか、実際に農林水産課から具体的に何か事業所に指導されているのか。2割削減だと相当な量になると思うが。

⇒森林管理については、森林経営管理法というものがあり、基本は所有者に管理してもらうが、適切に管理されていない所は、国・県・市が管理を支援していこうという法律がある。特に伊勢市だと、市の半分が森林で、その内の半分が神宮林。神宮林は神宮が適切に管理している。その残りの市全体の4分の1、その中の民有林に関して、市が代行して森林管理をしていく取組をしている。

しかし、間伐までは至っていない。森林は、所有者がよく分からないというのがたくさんある。それで、森林の持ち主がどう考えるのか、自分で管理するのかといった意向調査をさせてもらっている。そういう意向調査をして、市が管理してほしいという話があれば、今度は境界の確認をして、間伐ができる場所を探し、市がある程度まとめて業者などに委託して代わりに管理していく。

そのようなことを現在、進めているところ。まだ意向調査の段階で、間伐までは至っていないが、今後は間伐まで進めていきたいと考えている。【事務局】

- 私も「もう少し分かりやすく表現」と皆さんが言われたのと同じ考え方。皆

の中で環境課がやらなければならないのはスタッフも辛い。スタッフをできるだけ揃えてもらって、原課に言われるとおりではなく、分かりやすくしてほしい。

例えば、太陽光の話一つにしても、「中学校・小学校に入れました」ではなく、一人当たりは分からないが、多分、体育館と土地は別だから、廃校になったところはそこだけで統計は取れると思う。そうした時に、それが3分の1になったとか、そのようにある程度分かりやすく。その感想が一つ。

ここで、非常に難しいかもしれないが、願いがある。東日本大震災の時、5日後に宮城県と岩手県に行ってきたが、水道やパソコンは全部アウトになる。それは下に置いてあるから。今回の能登を見ても分かるが、市民病院を持っている時に、全部止まるから、太陽光を学校とか農地じゃなく、市民病院以外に設置してほしい。みんな手術の時に困る。大切な命、お年寄りとか人工透析だけでも3日間ぐらいはつなげるように、太陽光発電のようなものを入れていただくと良い。これはアイデアだが、しっかりご相談をしてもらうようお願いしたいと思う。

⇒環境基本計画に基づいて、環境やごみの問題などに取り組ませていただいている。体制強化もしたいとは思っている。もっとスタッフを増やして、より充実した内容で、「分かりやすく」ということも含めて市民の方々にPRをしていきたいと思っている。災害時の電力の確保は、非常に大事な話だと思っている。伊勢病院は太陽光を入れているという話を聞いている。基本、自家消費という形をとっているので、万が一の時には大丈夫かと思う。ただ、既存の施設にはまだまだ太陽光発電が導入されていない。聞くところによると、最近窓に貼れるような薄いタイプのもが開発されてきている。それがより安価になれば、設置もしやすくなるのかなと思う。脱炭素の技術は、出始めはすごくお金が掛かるというところで、皆さんに取り組んでいただく時に、お金の話になってきて、そこは非常に辛い。今は技術革新も進んでいるので、それに期待をしながら、少しずつでも太陽光発電や、太陽光発電以外にも再生可能エネルギーというものがあるので、その辺の導入に向けても研究していきたいと考えている。【事務局】

- 「水環境の保全」のところ、前回、「水がきれいになり過ぎて」というようなことを言われていた。公共下水道が増えることによって、併せて公共で行かない所は、合併浄化槽を単独から替えていく。その比率が、他の県と同じではなくて、この伊勢湾というのは閉鎖性水域だから、全くそのとおりに入れられないということだけはお願いしたい。下水道は、出る時に大腸菌からノロウイルスまで全部チェックする。合併でもきれいかと思うが、ノロウイルスはチェックできない。これが出たときは問題が起こる。そういうことも踏まえて、将来、閉鎖性水域を抱えている伊勢湾にある伊勢市が、合併浄化槽と公共下水道の比率をどうしていくのか、その辺の考えがあれば教えてほしい。

⇒今、下水道の計画自体は、およそ人口の9割ぐらいが下水道になるのを目指している。それは当初から、そのような考えで整備が進んでいるが、現実としては、接続率とか、いろんな課題を抱えながら、まだそこまでいっていないというような状況である。【事務局】

⇒環境ということから言うと、特に伊勢市の場合、伊勢湾に面しており、閉鎖性水域と言っている。東京湾・伊勢湾・大阪湾・瀬戸内海は、生活排水が溜まりやすいので、「ある程度、一定以上の水準まできれいにした水を流しましょう」ということが地域の決め事で決まっている。

その中で有効なのが下水道だが、現在は、浄化槽も下水道と同じ程度にきれいになってきているので、下水道にするのか合併処理浄化槽にするのか、地域で住み分けしていこうという動きがある。先ほど環境課長が9割と言ったが、今、78%ぐらいが下水道で、残りの地域を合併処理浄化槽にしようというように計画が変わってきている。そういったことで伊勢湾の水質をきれいにするという目標になっている。ただ、水産業の振興という面からは、きれいにするだけでは水産業の衰退というものがあり、きれいにする必要もあるけれど、それなりに水産業が成り立つような施策も打っていかないといけない。その辺のバランスも考えながら、これから水産振興も進めていきたいと考えている。【事務局】

⇒「豊かな水」というのは、難しいなと思う。きれいな水にするために下水道を頑張ったものだが、この辺はバランスを取ってやっていただきたい。

⇒非常に難しい問題かと思う。海に出ていく水が完全に浄化されると、海の資源が少なくなってしまうという、その辺のバランスの問題かと思う。長い目で見ないと駄目だと思う。

・ 資料1の6ページ「自然との共生」のところで「生物多様性の保全」があるが、今回、環境保全型の護岸ブロックをたくさん使用してくれているということで、すごくありがたいと思う。排水などを考えて建設系の方から見ると、コンクリートのストレートが一番、排水が速いから、それにどうしても目が行ってしまう。生物多様性というと、川だったら渚と瀬があり、その中に植物があって、それでバランスが取れる。小さい生き物たちの住みかになったり、流されずにそこで住める環境ができることになったりするので、これからもその点、配慮しながらの工事をよろしく願いたい。

「いきものログ」の調査に数回参加させていただいた。今は河川の生き物が中心になっていて、大体ある程度、どういう生き物がいるのかということがデータとして取れたということで、これからは2か月に1回に減ってくる。そういった水質調査を兼ねての河川の生き物調査が続いていたと思うが、これからは、あまり範囲を広げ過ぎると大変だと思うので、昆虫や植物、外来生物とか、ある程度

データが取れたら、違う分野のものにターゲットを置いて、少しずつ市内全域の様々な生物環境のデータが取れたらありがたいと思う。

⇒環境保全型の護岸ということで、一般的な水路や川などではないが、昨年まで、大淀漁港から海の方へ突き出した消波ブロックの所で、環境型ということで藻が発生しやすい資材を使った。藻や海藻が発生すると、そこに魚が寄ってくる。そのような環境型のブロックを使わせてもらっている。【事務局】

⇒保全型ブロックのところ、市が管理するのは小さな河川になると思うが、河川を整備する時に、そういったブロックをなるべく使うようにということを考えている。仰るように、ストレートのコンクリートの方が流れは良いが、自然や環境のことを考えて導入しているということを知っている。担当課にご意見を伝えさせていただきたい。【事務局】

⇒もう一点、「いきものログ」のことを答えさせていただきたい。いきものログ、いわゆる生き物調査だが、川がきれいになってきて値が安定してくると、生き物がたくさん見られるようになって、あまり水質が下がりきらないようになる。そういうことを皆さんに分かってもらいやすいように、生き物は何がいるのかを調査することで、それをご覧になって、きれいになってきたんだという感覚を持っていただければと思い、環境会議と一緒に始めた取組である。

その環境省の名前が「いきものログ」という名前になっている。こちらについては、10年前から、いろんな生き物が増えているように感じている。生活排水の計画も来年改定する期間になるので、どんなものがあるのか、何らかのカタログ的なものでも作ればと思って準備を進めている。【事務局】

⇒産卵だけを海にしに行くというものもある。甲殻類とか。産卵するためには、高い堤防のブロックを乗り越えて海に行かなければ産卵できないというものもあり、結構その手のものの数が減っているということがあるので、そういう産卵場所になっている所には、ロープとかギザギザとか、階段まではいなくても良いので、ちょっと登って海の方に行けるようなことなどをしてもらえればすごくありがたい。

⇒特に海岸の堤防だと、津波を防止するという側面があるので、あまり乗り越えやすいようなものだと役目を果たせないという部分もある。そういったご意見もあるということは前から承知しているので、そういったことも考えていく必要があると思う。【事務局】

⇒アカテガニとか、そういうものですね。全体的に堤防を高くすると、そういう形になる。これもバランスの問題かと思うので、正確な調査が必要。それをしないことには、どういう施策をするかというのはなかなか難しいと思う。そ

の辺りを考えていただけると。

- 最近、三重県でプラスチックのリサイクルに関して、「プラスチックリサイクルマッチングシステム」ということが始まった。プラスチックを出す事業者と、それを加工して作り変える事業者をマッチングさせるという取組。最近始まったばかりだが、伊勢市として協力するなど、考えているか。

⇒その仕組み・制度については認識していなかったもので、調べさせていただきたいと思う。プラスチックは、今年から全市でプラスチック製品を回収するというので動き始めたところ。プラスチック回収に関する周知も浸透していないと思っているので、これから市民への啓発を増やしていきながら、プラスチックが大切・重要であるということも含め、そういったものが効果的なものであれば取り組んでいきたいと思う。ひとまず、プラスチック回収が始まったところなので、仰っていただいた仕組みも勉強させていただきながら、効果のあるものを研究していきたい。【事務局】

- 資料4のところで、燃えるごみの量が少なくなっていると感じられる。目標値が随分減っているが、数値と人口の推移があれば、また違うのかなと思う。量だけが表示されているだけで、平成27年度の時の人口はどんなものかなというのが分かれば、一人当たりのごみの量が違ってくる。

それともう一つ、不法投棄の件数は資料にないが、少なくなっているのか。

3つ目は、毎日の生活の中で、燃えるごみよりもプラスチックごみの方が嵩むことが多い。現在、買い物に行って、何を買ってもプラスチック容器に入っているので、プラスチックごみの出る量も分かるのではないかと思う。そういうことを統計に入れていくことはどうか。

⇒燃えるごみの所に人口を入れていくということで、そのような見せ方については、これからも工夫させてもらいたいと思う。一人一日当たりを算出するに当たり、年度末での人口を把握しながら計算させていただいている。令和4年度だと人口が121,222人という数字が出ており、39,231トンから一人一日当たりを割り出していくと、560.12グラム。前年度から比較すると、一人一日当たり5.33グラムの減少ということになる。微減の状態である。

また、不法投棄のところでは、市民の方から不法投棄の通報がある。どれくらいの通報があるか、数は持ち合わせていないが、不法投棄した者が特定できれば、警察へ通報して罰せられることもできるが、ほとんどが本人を特定することができないところで、行政が仕方なく処分しているところもある。テレビ・家電製品といった排出もある。消火器・タイヤも溢れんばかりで、年間合わせると50件ぐらい。冷蔵庫にしても多い時は35～50件ぐらいあるというような状況である。不法投棄の発生する要因は、やはり草木が繁茂をしていて、人氣が寄り付かないような状況もあり、道路の沿道に関して不法投棄が発生し

やすい状況にあるので、国や県に協力いただきながら、除草をして不法投棄の撲滅をさせていただいている。あと、3つ目のプラスチックのところ、もう一度ご質問をいただいてもよろしいか。【事務局】

⇒燃えるごみはこのように数値が出てきているのに、プラスチックごみは毎日の生活の中で増えているので、そのような統計も取って、それをみんなが分かるような形にすれば、分別の促進になるのかなと思う。

不法投棄の件の続きのことで一つ。ごみの集積場所が、道路の広い、置きやすい所にあり、私の知っている所では、出す時じゃないのに、変なごみが置かれていることがある。これを入れたらいけない、という所に置いてあるのを何回か目にする。収集するのに楽な所で、広い道路で、置きやすい場所が、収集しやすい場所と一緒になる。置きやすい場所と収集しやすい場所を、初めに決まったらずっと変えないというよりも、そういう所は改善して変えていくという考えはないのか。

⇒燃えるごみの所に、よく置かれているということもあるかと思う。ただ、燃えるごみの集積所を作っていただくのが各自治会ということもあり、本日、お話をいただいたことは、何かの機会に、自治会の方に話をさせてもらわないといけないと思ったりする。しかし、場所は限られた所ということもあり、なかなか難しい状況ではないかと思う。分からないように、置いていかれるのもある。資源ステーションでもそうだが、見えない時に、夜中に、なかったものが置かれているということがあったりして、資源ステーションに関しては、防犯カメラを付けさせていただいたり、抑止に努める対策も重ねている。集積所に関しては、違法物・不適物が置いてあると、そのまま「仕方ないなあ」ということで回収してしまうと、全く効果がないということで、警告シールを貼らせていただき、出してきた人が、「これは出してはいけなかった」ということを分かってもらえるような仕組みを取りたいところ。しかし、自治会からご意見をいただくのが、「そんなものを貼っても仕方ない」というような話もあるので、このところは、これから末長い話になるが、適正分別・適正排出ということで、私たちがしっかり現場に立つなり、そういった機会を設けながら、地道に努力というか、周知をしていかなければならないと思っている。【事務局】

⇒住民ではなく、通りすがりの人が置いていくというように感じる。貼り紙をして「ここはいけませんよ」と言っても、住民は置かないので。燃えるごみの時も「他の人が置いたら駄目ですよ」ということは何回か言ってもらっているが。

⇒通勤時に、地区外に置いていくという話も聞く。実際に見せていただいた所もある。集積所は鍵の開閉・戸締まりなどもできるが、その前に置かれてしまうと、これは取り締まるしかないかな、というところもある。これからも良い

策があれば研究させていただき、取組をさせていただきたいと思う。

それから、最後にお話しいただいたプラスチックのところ。今年から、全市でプラスチック製品をプラスチック製容器包装と合わせて排出していただいている。プラスチックというと、容器包装は、食品など日常の中で多く出てくる資源物になるかと思う。プラスチック製品というと、皆様に排出していただいているのが50センチ未満のもので、例えば、ストロー、スプーン、それから、よく調査する中で見たのが洗面器とか、そういった小型のプラスチックでできたものが排出されている。50センチ以上のものになると、粗大ごみとして、各自治会で年一回開催させていただいている粗大ごみ回収で回収をさせていただいている。この4月から全市で始まったので、後々、統計というか、量などの把握をしていきたいと思っている。昨年、先行実施ということで、15自治会をセレクトさせていただき、実験的にご協力いただいた。その排出量は、プラスチック製品がプラスチック全体の割合として4%ぐらいというような状況だった。仰っていただいたように、たしかに嵩ばるということはあるかと思うが、全体的には日々の中で出てくる量というのは、さほど多くなかったというところもある。また、時期的なこともあるかと思う。特に、年末年始の大掃除や、引っ越しをされるなど、一定のタイミングでたくさん排出される機会も出てくるかと思うので、その辺りも今後調査をしながら、排出量、それからどういったものが出てくるかを調査して検証していきたいと思っている。【事務局】

- プラスチックを燃焼させても良い方法ができたようで、生ごみと一緒に処理する自治体も出てきている。ここで話を聞いていると、プラスチックは悪いけれど、存在しているのは既成の事実だから、それにどう対応していこうかと感じるが、何でそんなものを作るのか。やめたら良いのにとと思う。

⇒プラスチックがこの世の中、日常の用品、使用物として、何に関してもプラスチックから出来ており、使いやすいということで普及してきたのかなと思っている。資源循環型社会の形成ということが騒がれるようになってから、各企業でも取組をしていただいているところではあるので、先ほどの話では、他の行政でまだ燃やしている所もあるようだが、伊勢市としては、こういった資源を有効につなげ、循環させていかなければならないという考えのもと取組を進めている。市民の方々にもご理解いただけるように、これからはしっかり取り組んでいきたいと思っている。【事務局】

- 公園・緑地などの除草等の管理に関してだが、オオキンケイギクという特定外来種が、まだ入ってきてそんなに経っていないので、年々、すごく広がりつつある。昔のセイタカアワダチソウが知らない間に日本中に広がった。そうならないうちに何とか、伊勢市が管理している公園や道路の法面とか、そういう所だけでも、処理する方々に知らせて何とかできないか。すごい手間だと思うが。こちらは地域で駆除しているが、していない所では増えている。

⇒オオキンケイギクは、たしかにきれいだなと感じる。私は、まちづくり協議会で5年ほど取り組み、根っこから全部引くということで、以前、清掃課にごみ袋へ入れて出す許可をしてほしいということで、5年続けたら全く無くなった。もう全然生えていない。町の方もそういう意識をされて、自治会・まち協で、地元で取り組んでいただくのが一番良いのではないかと思う。私は、どういう処理をしたら良いのか全然分からなくて、名古屋の方まで行った。矢田川という川があり、そこで名古屋の環境団体が取り組んでいて、大学の先生が来てやっていることを勉強してからこちらで取り組んだ。成功したと思った。やはり地元で取り組むような方策をしないことには無くならない。

⇒一部、公共の土地で、そういう作業もしたことがあると伺っている。種は境界線に関係なく行くので、自治会と連携して取り組む必要があると思うので、何かしらその機会を作ればと思う。【事務局】

(3) その他

○事務局より今後のスケジュールについて説明